

生活感あふれて

ゆっくりと時間が流れ、小路には、人々の生活感があふれる——新潟市中央区本町通りの古戸屋(いかりや)小路



新潟日報

ふるさと得集

県内は、うだるような暑さが続いている。外を歩けば汗が噴き出し、照りつける日差しがうらめしい。
表通りの角を折れ、ちょうど人がすれ違うほど幅しかない脇道に入る。両脇にびっしり並ぶ家屋の日よけになり、吹き抜ける風がほおをなでる。ふと一息ついた。

玄関の前に整然と置かれた鉢植えに、じょうろを傾ける年配の男性。通り抜かった女性が親しげに舌を掛けた。その脇を猫がゆっくり横切る。屋根と屋根との間を見上げると、抜けるような青空。茶色の板塀とのコントラストが鮮やかだ。

新潟市中央区の古町周辺。町の区画は江戸時代に出来上がった。近代化とともに拡幅、延長された枉

谷小路は今やオフィスや店が集まる目抜き通りに。かたや商店街脇の小路は行き交う人もまばら。どこからか井戸端会議の声も漏れ、下町の風情を感じさせる。古町の上から日和山付近の下まで、2時間ほどかけて小路をゆっくり歩いてみた。渡町新潟をはじめとする旧家や町屋が迎えてくれる。途中、菓子店で家族の土産も買っていく。ちょっとした旅行気分に浸るのも悪くない。

さあ夏のひととき、情緒あふれる小路に出掛けてみようか。

柳都の情緒 小路散策

にいがた 小路歩き特集

6・7面 小路の名所・味

全国路地サミット実行委員長に聞く

本社事業案内

心癒やす人

下駄へのこだわり貫く



今は、駄の需要も減り、買物客も少ないな
った。店番をつくる林さんのお母さんは、
「娘の夫は、おやじのかの営業
名前を出すくらい」。
「若生アーティスト」を新
店舗の名前とし、古町通りに
出店する。昔ながらの下駄が
あつたり、鼻歌をし
ながら歩く若い女の姿
はほんとうさうから



にいがた 小路マップ。



思いがけぬ発見 街の良さ再認識

キウイや木イチゴが実を付け
る、お気に入りの権現小路を訪
れる野内隆裕さん＝上大川前通

10月開催の路地サミット

煙突など 日暮に残る
景がたくさんあつた。

林はきもの店 ピンチャン小路
下駄へのこだわり販
白山神社にほど近い
ンチャ小路沿いに
100年以上の店がある。
駄や草履サandal

ノチャン小路沿いに創業する。100年以上の老舗「林はきもの店」がある。下(64)は「地方巡回業」でやつてきましたお相撲さんが「も返る。」3代目の林義雄さんともあるが、このころをさす。

「買いに来た」と林さんは期待する。
「それでみてはし」と小路マップ①は懐かしそうに振り返る。

町通に面した4階建ての古書店がある。下を向いて歩くと気付く。新潟地震で傷んだ旧社
員の織田さん。横1枚の小さなタイルを使ったモザイク壁画だ。

良寛の優しいまなざし
が、街の様子を優しく見
守っている。

人情横丁 新津屋小路

「新津屋小路の眞ん中時は略の中高い人物化してよ。」5年ほど前に「ある商店街の呼び方で、現客でして歩く間違えて、親しくものも変ったうど」「人情橋」といふ言葉もさまでいる新津屋中央市振込だが、郊外店ながらのふる人の付を残す。50年前生の馬鹿野郎街50周年記念式典で、少なからず、今までの感謝をも含めて御禮を述べた。今Rしている。

かりだからこそ見どころはいっぱいある。のぞいてみると面白いですよ」とほほ笑んだ。